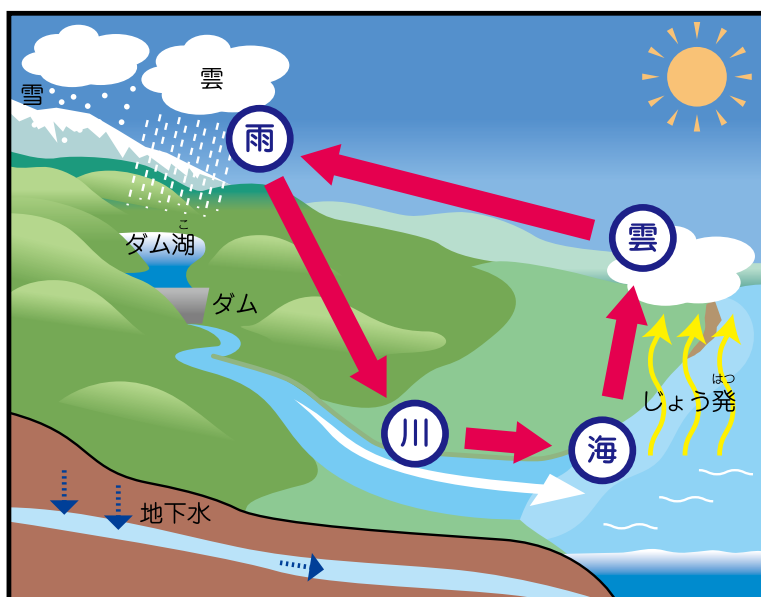


ち きゅう 地球の水かんきょう

■ 水のじゅんかん

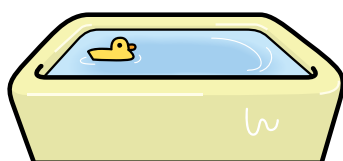
海の水がじょう^{はつ}発して、上空のつめたい^{おも}空気^{し めん}でひやされて雲になり、雲が重くなると雨になって山や森にふり、地面にしみこみます。地面にしみこんだ雨は、地下水や地面から少しずつ流れ出て小さな川になります。そして、小さな川はあつ^{あつ}まって大きな川となり、やがてまた海へと流れていきます。このように水は終わることのない^{たび}旅をつづけています。これを「水のじゅんかん」といいます。わたしたちはこの水のじゅんかんの中で地下水や川などから水を取り、じょう^と水場で水道水にして、家や学校で使っています。



■ かぎりある水

うちゅうから見る地球は青く見えます。これは、地球には、およそ14おく³kmの水があり、地球の表面の3分の2が水におおわれているからです。しかし、地球にある水の97パーセントは海の水で、のこりの3パーセントの水も、ほとんど北きよくや南きよくの氷や地下の深いところにある水などのため、わたしたちが分け合って使える水は、地球にある水のうち、わずか0.01パーセントといわれています。

ち きゅう 地球にある水の量を、お風呂1ばい分(およそ200リットル)だとすると、わたしたちが分け合って使える水の量は、スプーン1ばい分(およそ20ミリリットル)になります。



ち きゅう 地球にある水の量



わたしたちが分け合って使える水の量

ほく^{つか}たちが使うことができる水は、ほんとにわずかなんだね。

